

玉島陶・服部地域まちづくり構想

令和6年8月

玉島陶・服部地域まちづくり協議会

目次

1. 地域の概況.....	- 1 -
2. 面積及び人口.....	- 2 -
3. 土地利用の現況.....	- 4 -
4. 都市基盤・施設の現況.....	- 5 -
5. 災害リスクの状況.....	- 6 -
6. 地域住民から見た現況や課題.....	- 7 -
7. 地域づくりのめざす姿.....	- 15 -
8. 地域づくりの取組方針.....	- 16 -
参考資料.....	- 20 -

1. 地域の概況

穂井田地区は、倉敷市玉島地域の最北部で、同市真備地域と接する山間地区です。丘陵地形の弥高地区とその狭間の盆地状の陶地区、平地の服部地区からなっており、南西部から北方面へ小田川の支流の真谷川（またにがわ）が流れ、南北に県道倉敷美袋線（旧玉島往来）、東西に備南街道が通過しています。このような自然環境と交通、さらに瀬戸内海の温暖な気候によって、古代から現代につながる豊かな地域の風土が醸成されており、倉敷市都市計画マスタープランの土地利用方針図において自然環境保全地区、農業系土地利用地区に位置付けられています。

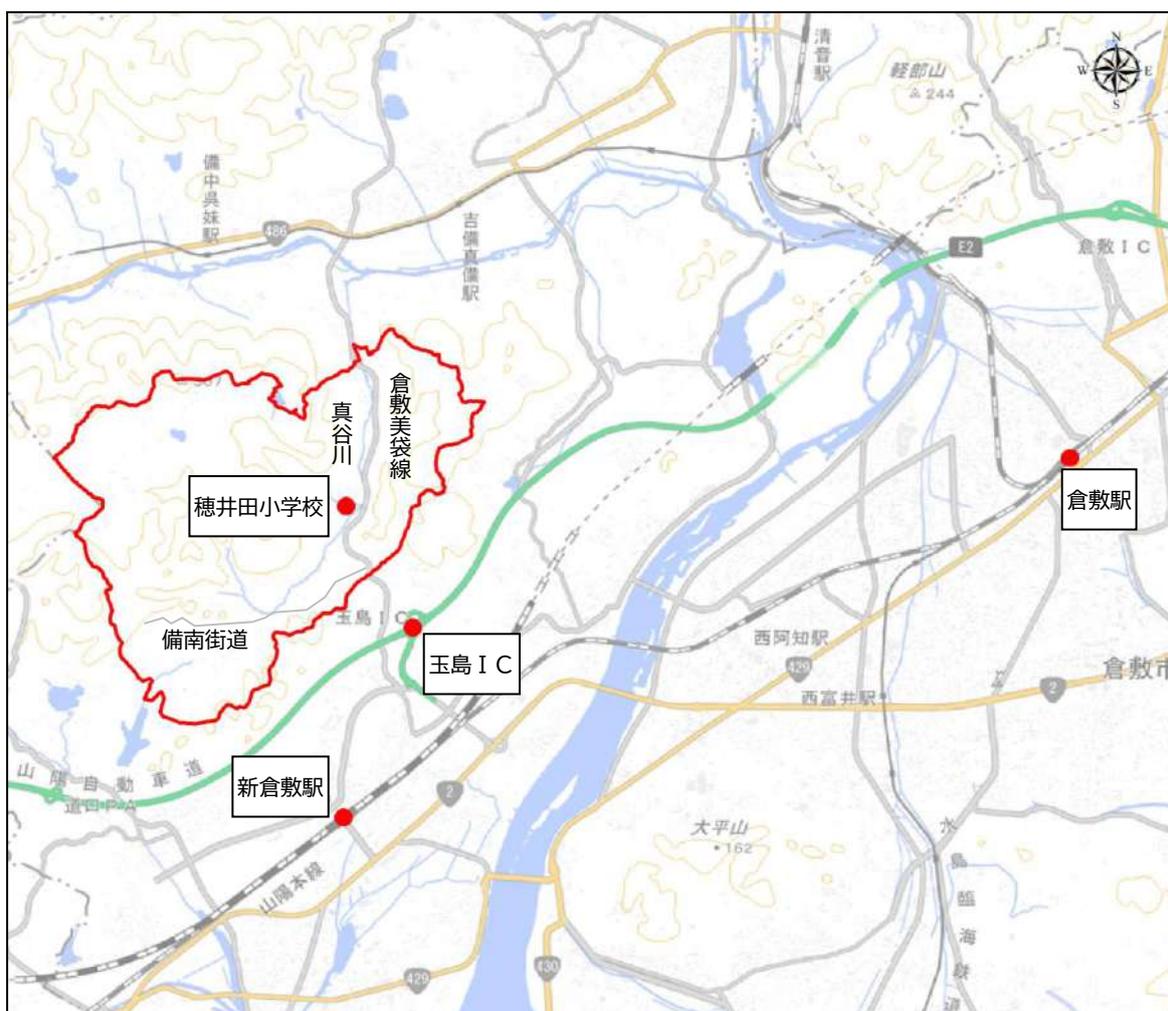


図1 地域の位置



図2 各地区の位置

表1 主要なアクセスポイントから穂井田小学校までの距離

施設名	距離	所要時間
倉敷駅	12km	約25分
新倉敷駅	5km	約10分
玉島 I C	3km	約6分

所要時間は車で移動した場合

2. 面積及び人口

穂井田地区の面積は約1,190haで、地区の全域が市街化調整区域に定められています。人口は令和2年の国勢調査で1,466人となっています。

倉敷市の人口統計により2010年から2022年までの人口の推移をみると、総人口は2010年の1,793人（高齢化率31.2%）から2022年の1,413人（高齢化率42.0%）と21%の減となっています。65歳以上の人口は2010年の560人から2022年の594人と34人増となっています。一方、15歳未満人口は2010年の160人から2022年の85人と47%減となっており、ほぼ半減しています。

2016年に玉島陶・服部地域まちづくり協議会を設立し、積極的に移住者の受け入れに取り組んだ結果として、15歳未満人口は2010年から2016年の6年間とその後の6年間では49人減が26人減と減少人数は少なくなっています。

表2 人口の推移

単位：人

年	2010	2013	2016	2019	2022
総人口	1,793	1,698	1,630	1,521	1,413
65歳以上人口	560	594	615	603	594
15歳以上65歳未満人口	1,073	984	904	819	734
15歳未満人口	160	120	111	99	85

出典：倉敷市 人口統計（住民基本台帳人口）※12月末時点

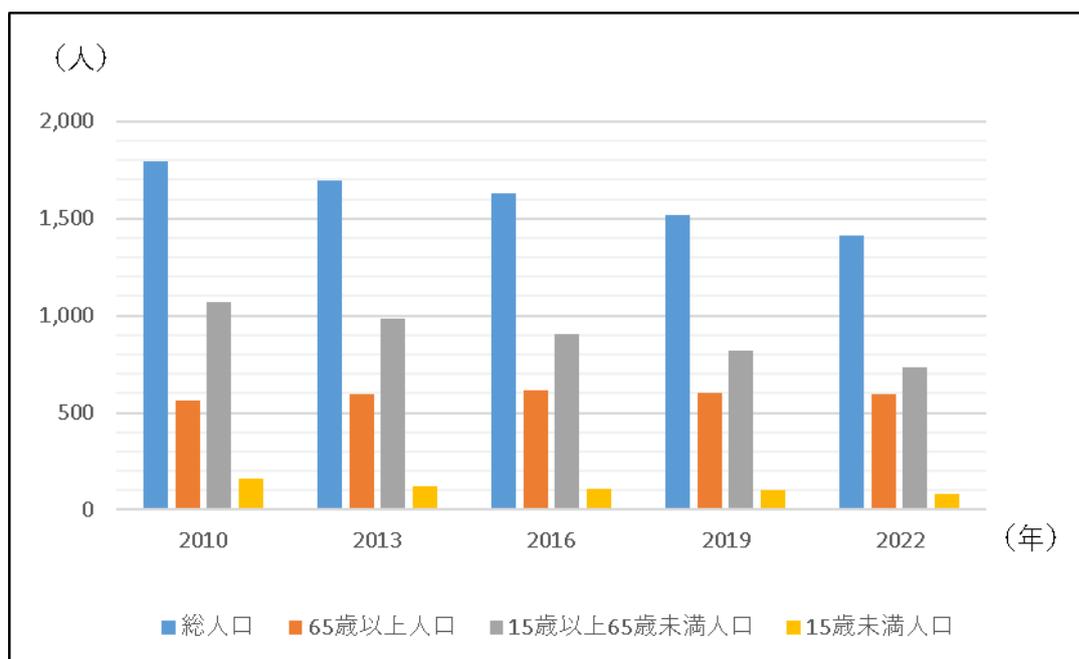


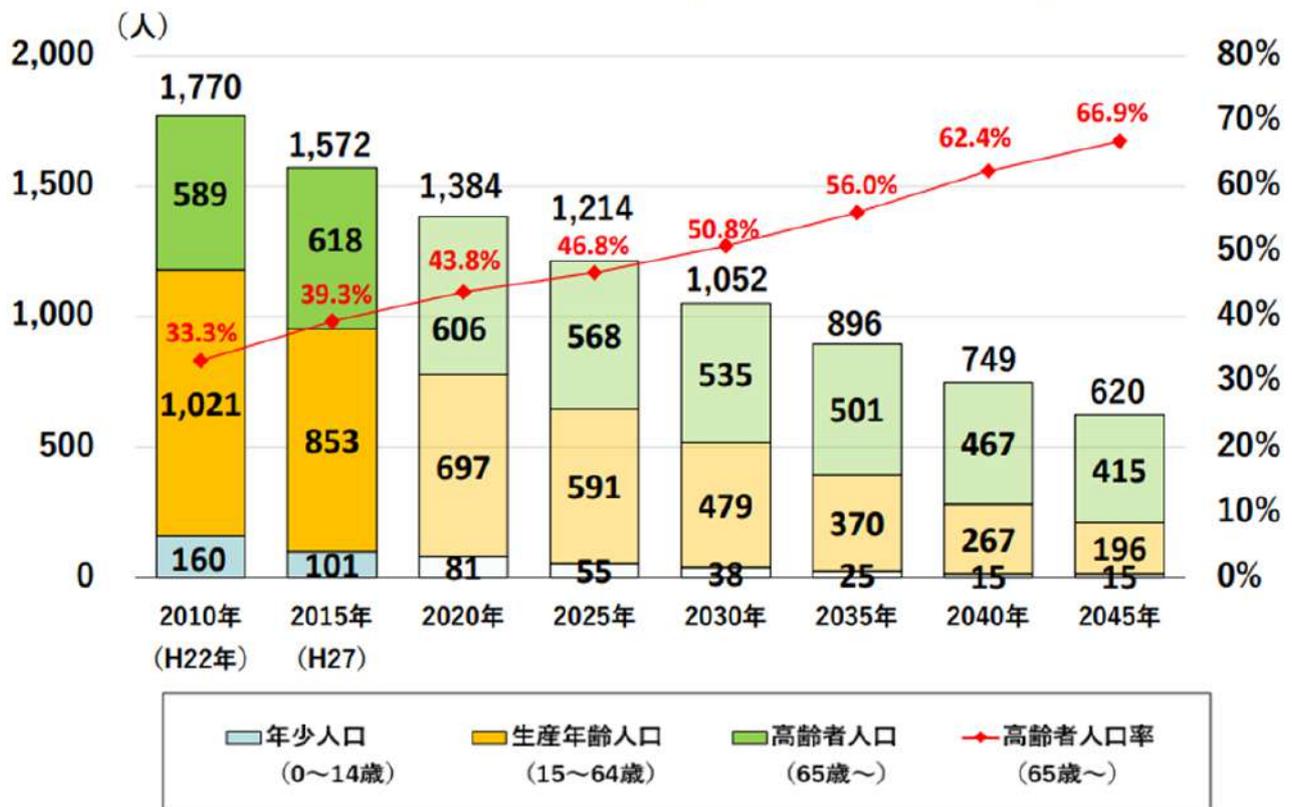
図3 人口の推移

また、2015年国勢調査統計をもとにした「みんなの集落研究所」のコーホート変化率法による人口予測によれば、2045年の穂井田小学校区の人口は、620名、65歳以上の高齢化率は66.9%と予測されています。



穂井田地区のこれから-国勢調査統計による人口予測-

※コーホート変化率法による人口シミュレーション（2010年、2015年 国勢調査により算出）



出典：玉島穂井田地区まちづくり計画に関する報告（H31.4）

図4 国勢調査統計による人口予測

3. 土地利用の現況

土地利用の状況を見ると山林が約60%を占め、田、畑、水面などを含めた自然的土地利用の割合が約85%を占めており、豊かな自然に囲まれた地域であることがわかります。

道路用地の割合が約5%、交通施設用地の割合が0%となっており、道幅が狭く、公共交通などの地域住民の移動が不便な地域であることがわかります。

住宅用地はわずか4%となっており、移住希望者等を受け入れるための住宅用地が不足していることがうかがえます。

また、地域内には空き家、空き地、耕作放棄地などの低未利用土地が点在しています。

表3 地域の土地利用現況

区分		面積(ha)	割合(%)
自然的土地利用	田	78.2	6.6
	畑	164.6	13.8
	山林	722.5	60.6
	水面	14.5	1.2
	河原等	37.3	3.1
	原野等	0.0	0
	(小計)	1,017.1	85.3
都市的土地利用	住宅用地	47.0	3.9
	商業用地	2.3	0.2
	工業用地	7.4	0.6
	農林漁業施設用地	18.9	1.6
	公益施設用地	8.5	0.7
	公共空地	3.1	0.3
	道路用地	53.4	4.5
	交通施設用地	0.0	0
	その他公的施設用地	0.0	0
	未利用宅地等	5.7	0.5
	その他の空地	29.5	2.5
(小計)	175.8	14.8	
(合計)		1,192.9	100.0

※四捨五入の関係上、内訳の合算が合計欄の数値と一致しない場合がある。

出典：R5 都市計画基礎調査



図5 空き家・空き地・耕作放棄地の状況

4. 都市基盤・施設の現況

本地域では、道路、公園などの都市施設については都市計画決定されたものではなく、地域の骨格を成す都市施設としては、道路は県道倉敷美袋線や備南街道が、河川は真谷川が通っています。その他の公共施設については、穂井田小学校や穂井田認定こども園が立地しています。

また、穂井田憩の家や各地区の公会堂などの地域住民の活動の拠点となっている施設、弥高山をはじめとする豊かな自然資源や君が岩、平賀元義生誕之地の碑等の歴史資源が点在しています。

表4 地域の主要施設や資源等

主要施設	学校	穂井田小学校、住倉学園
	保育園・幼稚園	穂井田認定こども園
	医療・保険・福祉施設	グリーンピア瀬戸内
	金融機関等	穂井田郵便局
地域活動拠点	穂井田憩の家、寒田公会堂、中公会堂 など	
その他の地域資源	弥高山八十八力所、君が岩、平賀元義生誕之地の碑 など	

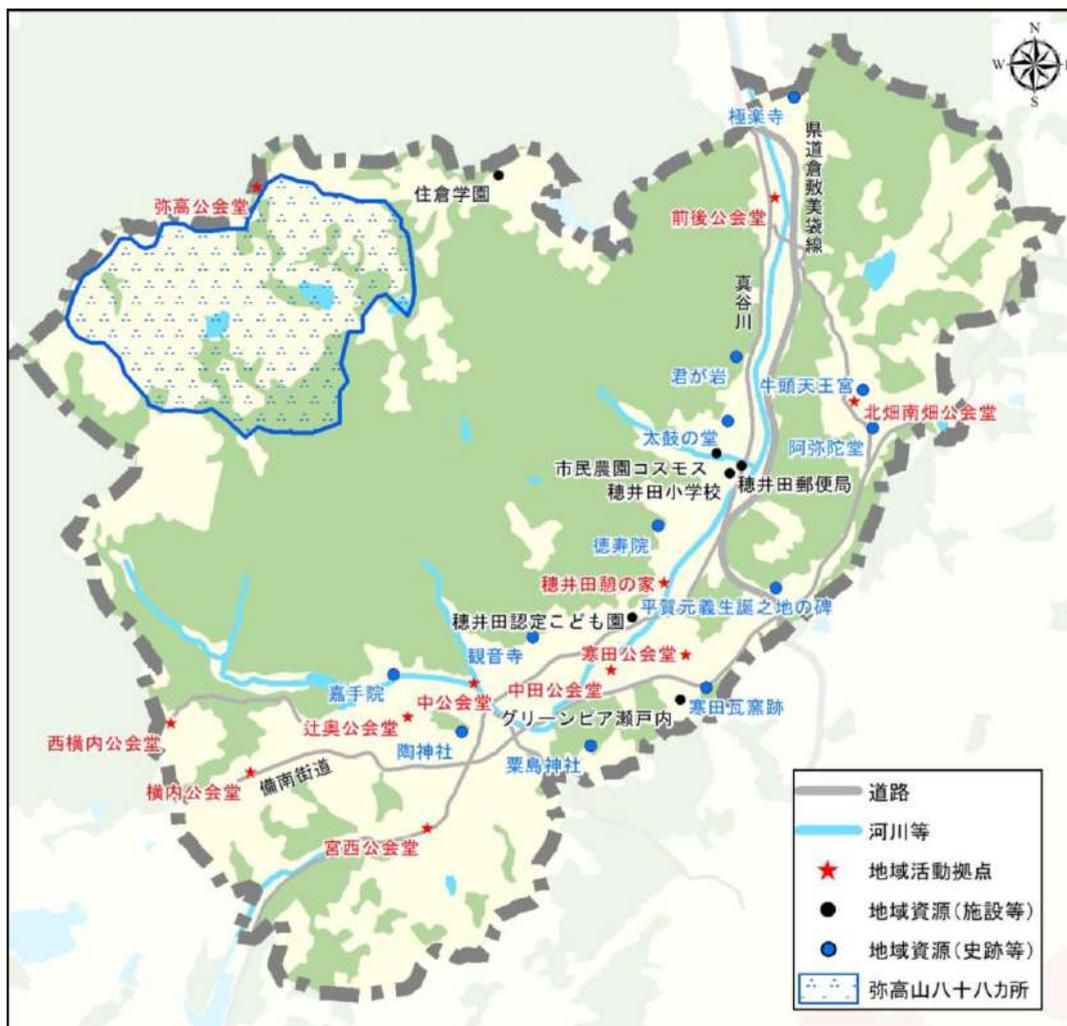


図6 主要な施設等の位置

5. 災害リスクの状況

地区内には土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域が指定されており、指定避難所及び指定緊急避難場所である穂井田小学校は土石流警戒区域となっています。また、ため池が多く、倉敷市のため池災害ハザードマップで2m以上浸水すると想定されている区域があります。

地区の北側は計画規模（L1）の洪水による浸水が想定されており、平成30年7月の豪雨災害では真谷川の堤防が決壊し、4棟の住家が床上浸水するなどの被害が生じました。



H30.7 豪雨災害時の県道倉敷美袋線の冠水状況



図7 災害リスクの状況

6. 地域住民から観た現況や課題

(1) 地域住民の意向（穂井田地区独自の全住民アンケート調査結果）

令和元年度にまちづくり協議会が独自に実施した住民アンケート調査では、回答率が本地域居住者の78%と、地域住民のまちづくりへの関心度の高さがうかがえる結果となりました。なお、回答者は10代から90代までの幅広い年齢層で男女比もほぼ同じでした。

アンケート調査結果のうち、(問8)「玉島陶・服部地域に住み続けたいですか」の問に対し「住み続けたい」答えた人が68%を超え、住民の定住の意向が高いことがうかがえました。

その理由として、最も多かったのは「持ち家があり、居住費が安価だから」であり、先祖代々受け継いできた家に住み続けることを望んでいることがわかります。次いで「生まれ育ったところで故郷を大切に思うから」、「受けついだ農地があるから」、「住んでいる環境が良いから」という本地域への愛着や故郷を大切に思う住民の気持ちが伝わる結果となっています。

問8 玉島陶・服部地域に住み続けたいですか

『住み続けたい』主な理由

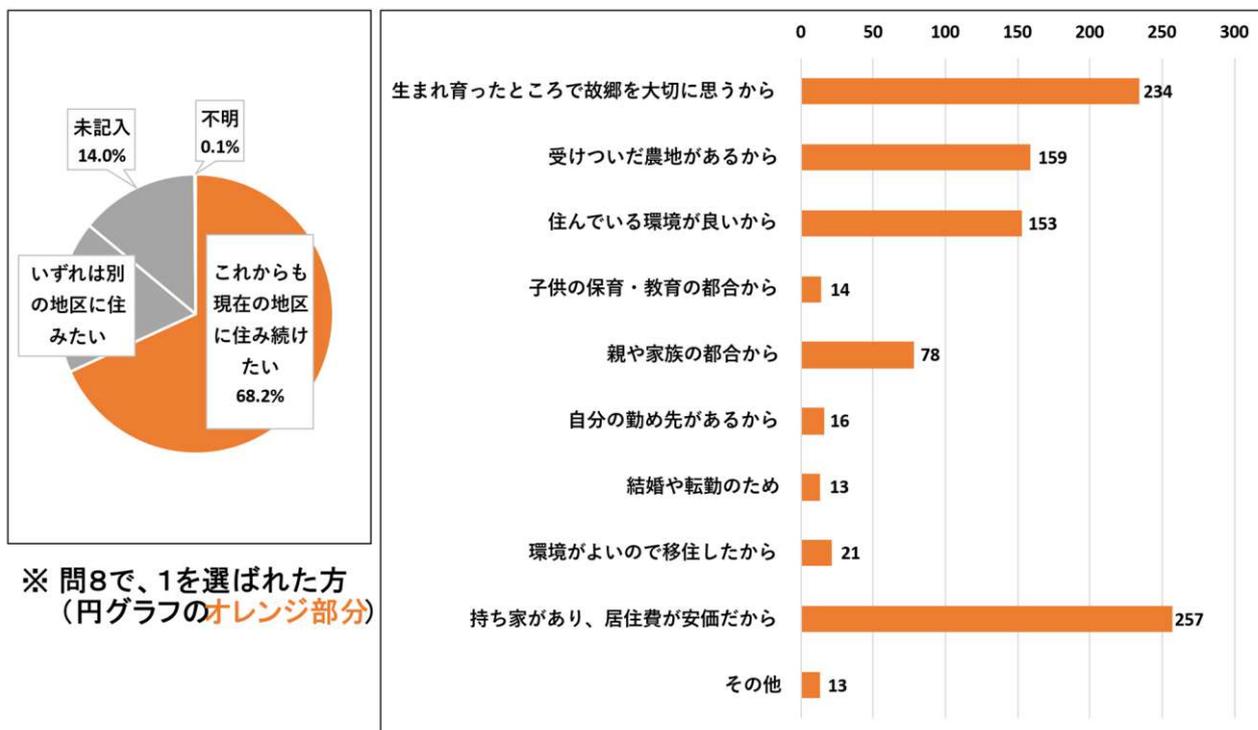


図8 アンケート結果（問8）

次に、（問9）「あなたにとって住みやすさとはなんですか？」の回答結果から、本地域の住民は「自然環境に恵まれている」、「静かな生活ができる」、「居住環境がよい」、「交通事情がよい」、「住民同士のつながりが豊かである」といったことを『住みやすさ』と捉えていることがわかります。本地域では、住民が『住みやすさ』を感じる以下のような特徴を有しています。

<住民にとっての『住みやすさ』>

<本地域の特徴>

- 「自然環境に恵まれている」・・・緑豊かな里山や川などの自然に囲まれている
- 「静かな生活ができる」・・・大きな工場や大型車が混入する幹線道路が無く静か
- 「居住環境がよい」・・・住宅の敷地が広く、隣り合う家屋が密集していない
- 「交通事情がよい」・・・駅やインターチェンジまで車で約10分程度の位置
- 「住民同士のつながりが豊か」・・・敬老会などの様々な交流会が盛んである

問9 あなたにとって住みやすさとはなんですか

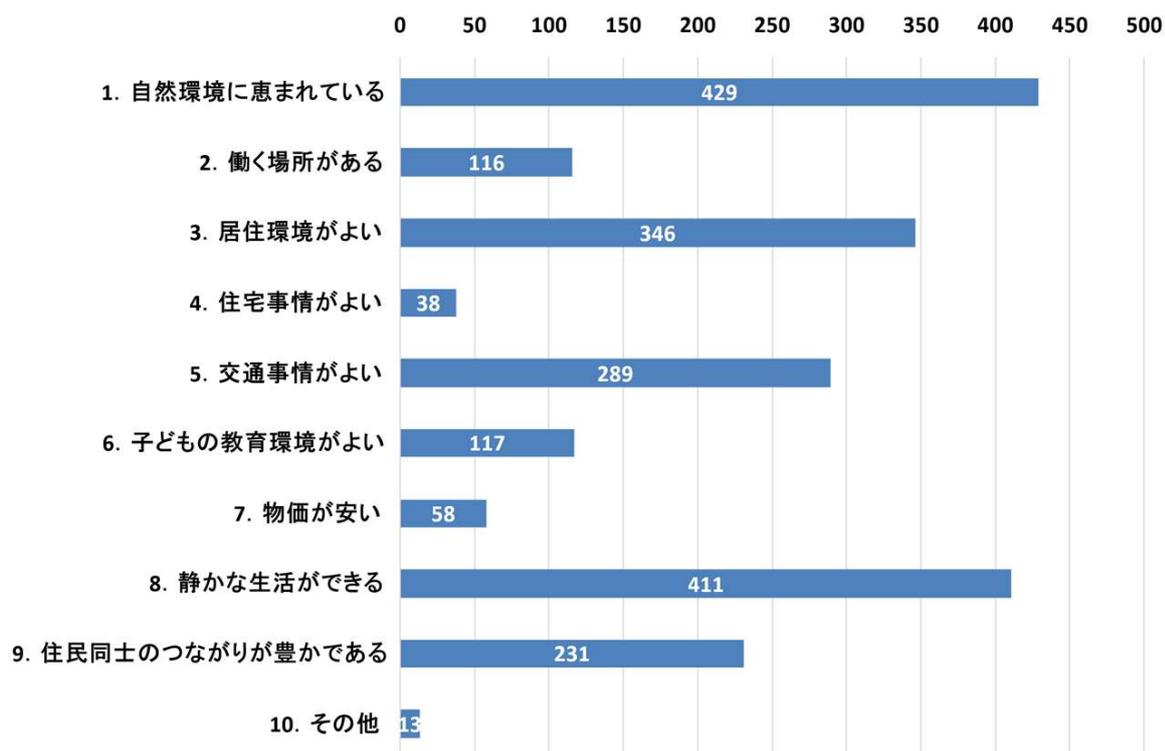


図9 アンケート結果（問9）

また、穂井田で生活し続ける場合の不安要因としては、「介護が必要になった場合の対応」、「高齢時に自動車が運転できなくなった際の移動手段」、「農業後継者がいないことで、先々の農地の維持・管理」などの意見が多くみられました。

問11 穂井田で生活する場合の不安

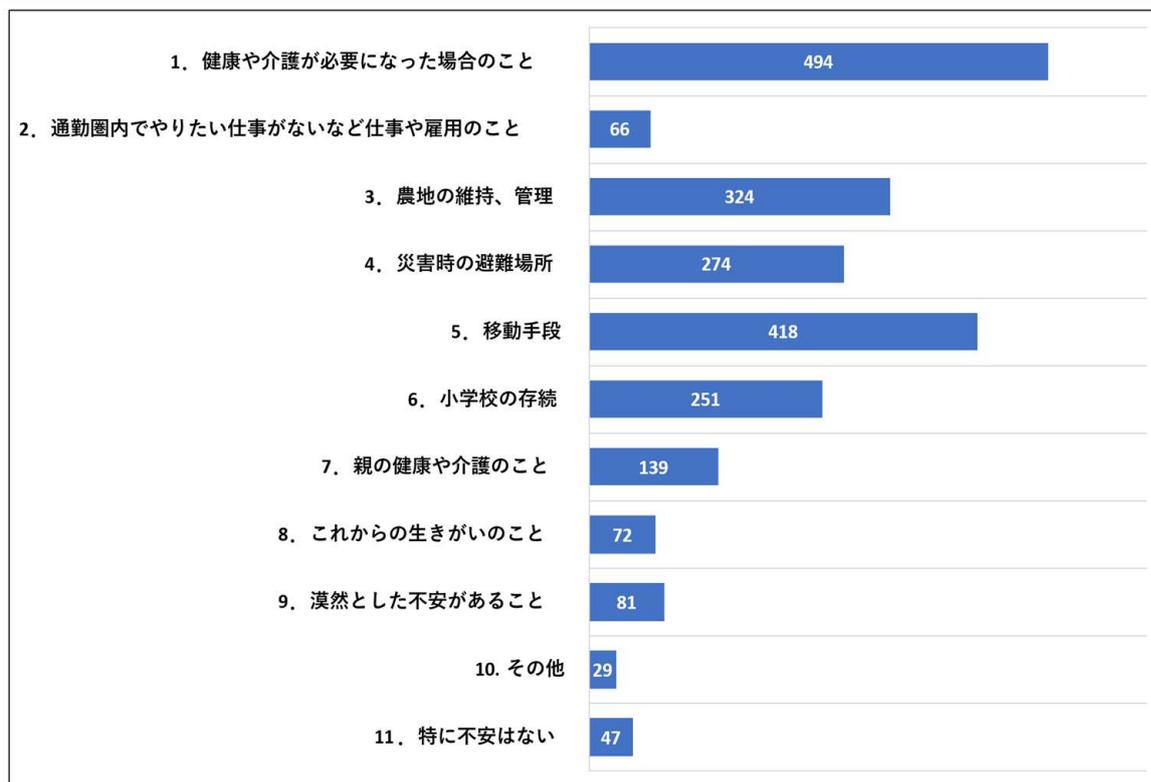


図10 アンケート結果（問11）

以上のようなアンケート結果からわかるように、住民は現状の生活ではなく、将来の生活への不安が大きいことがわかります。

このように、将来の生活への不安があるため、（問18）「わが子が大人になった時に、穂井田に住み続けてほしいか？」の問いでは、「はい」と回答したのは6%、「いいえ」が18%となり、「いいえ」が「はい」の3倍の回答結果となり、「現状のままでは、子どもたちに住み続けてほしいとは言えない」という住民の本音と穂井田の存続に危機感が浮き彫りとなりました。

問18 わが子が大人になった時に、穂井田に住み続けてほしいですか

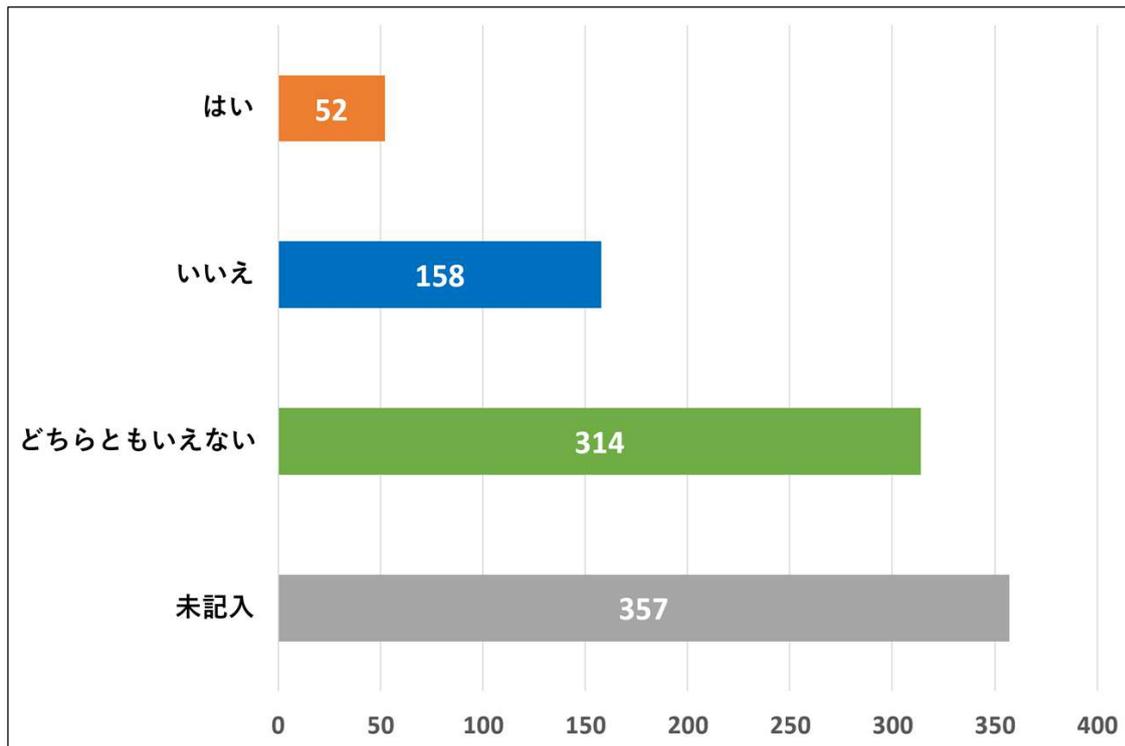


図11 アンケート結果（問18）

(2) 現況・課題の整理

分類	現況や課題
居住・集落	高齢化が進んでいる。
	若い人が地区外で暮らしている。
	小学生の児童数が減少している。
	高齢者の二人暮らしの家が多い。
	地域内の自然は豊かであるが、子供たちが外で遊べるような場所が少ない。
	新たな住宅を建てられる住宅地がない。
	若い人（次世代）に帰ってもらうための自由に家が建てられる場所がない。
	土地はあるが宅地に転用できない。
	空き家・空き地を活用したいが、すぐ活用できる空き家、空地が少ない。
	道が狭く、リフォームするための工事車両が入れない。
	喫緊に住まいの適地を見つける必要がある。
防災・安全性	穂井田小学校が土石流警戒区域に入っている。
	街灯が少ない。
	避難場所がない。
	地域コミュニティをベースに居住環境の形成や災害対策に取り組むことが必要。
	ため池の管理が心配。
自然・農地	里山の荒廃 里山へ入る道路がない 里山の整備が必要。
	イノシシが出没 電気柵等の整備。
	耕作放棄地が沢山ある。
	高齢化により、今まで以上に早いスピードで耕作放棄地が発生する。
コミュニティ	秋祭りなどが衰退している 子ども神輿がない 千歳楽がない。
	高齢者と若者世代との交流がない。
	子供会がなくなっている。
	老人が憩う場所がない。
	地域の文化を若者世代に継承できるコミュニティづくりが必要。
	歴史資源を案内、散策コースづくりなど地域の歴史と文化を楽しめる工夫。
生活利便性	地域内で働く場所が少ない。働く場所を創造する必要がある。
	地域内の生活利便施設が少なく、地域外の施設を利用することが多い。
	徒歩圏内にコンビニなど食料品や生活用品を購入する店がない。
	医療機関がない。
移動・交通	公共交通機関が無く、自家用車が必須の生活となっている。
	坂道が多く、歩行者や自転車では移動の負担が大きい。
	グリーンピア瀬戸内が運営していた乗り合いバスがなくなった。

(3) 今後の重点的に取り組む課題

「新しく家が建てられないので、跡継ぎが帰ってくる事が出来ない」、「子どもが帰ってきたくても住む家がない」、「子どもたちは他の地域に居住し、孫たちは他の学区の小学校に通う」、「代々守ってきた土地や田畑を今後どうすればいいのか」といった少子化、高齢化を憂う住民たちの声から始まった「玉島陶・服部地域まちづくり協議会」が活動をスタートして10年になります。

まちづくり協議会の10年間の活動が実を結び、他地域からの移住や若い子育て世代のUターンも微増しました。また穂井田をアピールするための取り組みとして、移住希望者の視察ツアーの受け入れや市民農園の運営にも取り組んできました。

しかし、根本的な課題として、次世代が故郷での生活を希望しても、市街化調整区域のため新しく住む家を建てられず、少子化、高齢化に歯止めをかけることはできませんでした。

そこで、これまでの活動を活かし、穂井田を持続可能な地域にしていくために、住民の意向と本地域の現状等を踏まえて、今後、重点的に取り組むべき課題を3つの側面から考えていきます。



移住希望者視察ツアー受け入れの様子①



移住希望者視察ツアー受け入れの様子②



穂井田地区移住者交流会の様子



市民農業交流体験の様子

① 次世代の定住、新たな世帯の移住

多くの子育て世代が「自然豊かでのびのび子育て」、「子どもの教育環境が良い」、「地域の見守りや学校行事に協力的」と子育て環境に満足している一方で、「公園などの遊べる場所や学習施設がない」、「公共交通などの移動手段がなく、徒歩で移動するには最寄り駅が遠いうえ、夜道が暗いなどの心配があり、子どもの送迎が負担」など子育て環境に悩みを抱えています。



穂井田小学校

また、農業振興地域等であることから新しく家を建てることができない、買い物する店や医療機関が遠いなどが要因となり、子育て世代と児童数の減少から「小学校の存続」に不安を感じています。それらの不安解消として、次世代が定住できる住環境の整備が必要です。

② 持続可能な農ある暮らし

本地域は多くの世帯が農業に従事しており、心豊かにやりがいを持てる「農ある暮らし」を実現しています。

しかし、農業従事者の高齢化に伴い休耕田畑が増えつつあるのが現状です。持続可能な農ある暮らしの実現のため労働者協同組合を立ち上げ、荒廃地、休耕田等の有効活用に取り組む必要があります。



耕作放棄地

③ 安心安全に住める地域づくり

山に囲まれた自然豊かな地域に住みよさを感じる一方で、公共交通機関や避難施設もないことから、地域住民の災害時への不安は大きくなっています。

本地域にある小学校やその周辺は土砂災害警戒区域に指定されており、地震などの自然災害から命を守ることができる「安全な避難場所」を喫緊に確保する必要があります。



穂井田小学校周辺の土砂災害警戒区域等

また、昔ながらのご近所付き合いや助け合いが根付く地域ですが、高齢化が進み、世代交代する中で付き合い方も変わりつつあります。高齢者世代の人も安心して暮らせるために、新たなコミュニティを作り、住民同士のつながりを大切に、災害時に助け合う自主防災意識を高めるための活動が必要です。



イキイキフェスタの様子



文化祭の様子



ひだまりカフェの様子



夏祭りの様子



敬老会の様子



地区消防団訓練の様子

穂井田を持続可能な地域にするためには、以上の3つの側面から重点的に課題に取り組むことで、親世代が安心して子育てができる環境を整えるとともに、親が子に対して、地域を愛する心、地域の良さを伝えていくことにより、地域に住み続ける心を育んでいくことが大切です。

7. 地域づくりのめざす姿

穂井田地域の将来像 : 豊かな自然と人とのふれあい ええとこ穂井田

穂井田地区は、のどかな田園風景が広がっていますが、新幹線駅や高速道路インターチェンジが近くにあり、交通の便が良いところです。また、倉敷市中心部へも車で25分ほどの距離でアクセスも良く、ほどよい田舎で住みよい地域です。

農業を営む家庭が多く、土地に根差した交流や行事が盛んです。子どもたちは、豊かな自然の中でのびのびと笑顔で過ごし、地域に愛着と誇りを持っています。お年寄りも農業や多世代との関わりに生きがいを感じ、生涯現役で過ごしています。

このような、豊かな自然と人とのふれあいが根付いた、ほどよい田舎で住みよい穂井田地域を、持続可能な地域にしていくために、「玉島陶・服部地域まちづくり協議会」では様々な取り組みを行ってきました。

先に述べた重点的に取り組むべき課題別に、地域づくりのめざす姿を明らかにし、これらを実現するため、引き続き、必要な取り組みを行っていきます。

① 次世代の定住、新たな世帯の移住

自然環境が守られた美観、観光農園やその直売所などを中心に、他の地域からも多くの人を訪れるとともに、移住者、Uターン、Iターンなどによる多くの若者世代の定住を促進し、人口増加と地域の活性化をめざします。

② 持続可能な農ある暮らし

移住者等の多くの若者世代の雇用の受け皿として、農業基盤を活用した商品開発、観光設備を活用した6次産業化に取り組み、新たな雇用の確保をめざします。

③ 安心安全に住める地域づくり

駅までの路線バスや循環バスが整備されるなど、公共交通機関が発達して、高齢になっても安心して暮らせるインフラが整っている地域をめざします。

また、災害時に避難できる施設の整備・拡充、住民の防災意識の向上、地域防災チームの発足、災害時の対処をわかりやすくまとめたハンドブックの作成・配布、定期的な防災訓練、日頃の隣近所の交流や声かけ、避難時の協力体制の構築などの取組を通じ、安心安全に住み続けられる地域をめざします。



8. 地域づくりの取組方針

(1) 住宅地の確保と整備に関する方針

- 市街化調整区域における地区計画制度を活用し、地域活動拠点の付近にある空き家・空き地を次世代が移住できる住宅として整備を進めます。
- 古い空き家を「住める家」として整備していきます。
- 空き家・空き地の調査・情報発信を行い、流通促進に努めます。

(2) 生活を便利にして活気ある地域づくりの方針

- 新倉敷駅と真備地域を結ぶ県道倉敷美袋線沿いに位置しており、路線バスの需要をアピールして路線バスの誘致に努めます。
- 買い物に出られない世代のために、移動販売車の誘致や地域での買い物サービス事業の創生に努めます。
- 交通量の多い県道倉敷美袋線や備南街道が通る地域であり、コンビニの需要が有ることをアピールしてコンビニの誘致に努めます。
- 北部に位置する弥高山は、歴史ある八十八カ所巡りや、牧場や乳製品工房が有る魅力的な地域であるため、道路事情の改善を図るとともに、案内板を充実させるなどによりアクセス性の向上に努めます。
- 地域住民の安全性の向上を図ため、生活道路の狭あい箇所や危険箇所の改善に努めます。



弥高山の八十八カ所



幅員の狭い生活道路

(3) 農地を活用した産業づくりの方針

- 労働者協同組合を立ち上げ、農ある暮らしの実現に努めます。
- 遊休農地を利用した市民農園の運営などを通じ、農業の楽しさを知ってもらい、農地が沢山ある穂井田の地に住みたくなる様に働きかけます。
- 地元小学校や子ども園と連携し、子どもたちが農作業を通して、「穂井田の農ある暮らし」を大切に思う愛着と誇りを育みます。
- 市民農園・観光農園の運営などを通じ、特産品の桃をはじめ、果物の収穫を楽しめる農園整備を行います。
- 地域外の子どもたちを農業体験に招待し、農業の大切さと穂井田の農ある暮らしの周知に努めます。
- 穂井田産の桃、ぶどう、牛乳を活かした特産品を考案して新しい産業創成に努めます。
- 地域産業である、桃・ぶどう・米・野菜を使用した独自ブランド品の開発を行い、特産品の直売とあわせて日用品も販売する直売所の設置に努めます。
- インターネットを活用し特産品の販路拡大に努めます。
- 地元食材の消費拡大に取り組むとともに地域農業の情報発信に努めます。

(4) 防災力向上・安全性に関する方針

- 災害時には直売所を避難場所として活用できるよう整備します。
- 社会福祉協議会、消防団と連携して各町内に自主防災チームを設置します。
- 各町内の避難場所・避難経路を整備するとともに、防災マップを作成・周知するなど、住民の自主防災組織の強化に努めます。

(5) 自然環境保全・活用に関する方針

- 弥高山や真谷川、果樹園や田畑などの緑豊かな地域資源を活用し、里山と共存した持続可能な農業の発展をめざします。
- 自然との調和を大切にし、農薬や化学肥料を使わず地域資源を活用して環境負荷の軽減に配慮した持続可能な農業を目指します。
- 化学肥料の代わりに地元に豊富にある牛糞、鶏糞の有効利用を検討します。
- 落ち葉・雑草・藁・米ぬか・竹チップを活用し地域資源循環型農業を実施します。
- 有機JASの認証の取得を目指します。
- 耕作放棄地の調査を行い、農地中間管理機構を活用した農地の有効化に努めます。
- 心安らぐ景観の維持に努め、多世代の家族や地域住民が気軽に利用できる公園、遊歩道、休憩所など自然環境を生かした憩いの場をつくります。
- 豊かな自然環境を活かして、農作業や動物飼育、木や竹を用いたモノづくりなど、体験を通じて子供たちの学びの芽を育む多様な保育・教育機会を提供します。



田んぼでパン食い競争



稲刈り実習

- 1 地区計画説明会／未来を考える
- 2 今日の説明会の位置づけ
- 3 地域の現状（帰れない・建てられない）
- 4 だからこそ地区計画
- 5 参加のお願い

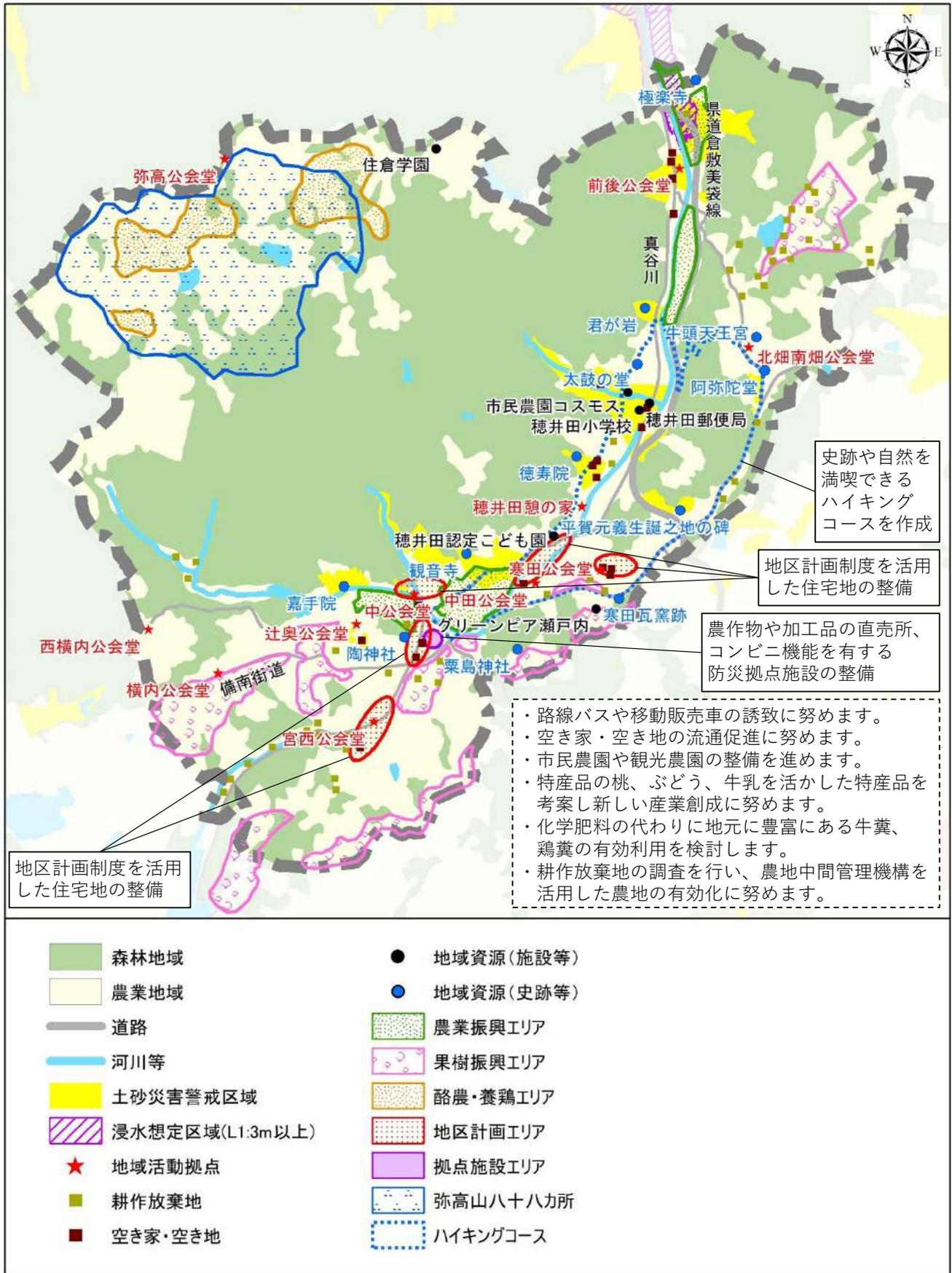


図12 地域づくりの取組方針図

参考資料

《玉島陶・服部地域まちづくり協議会のあらし等》

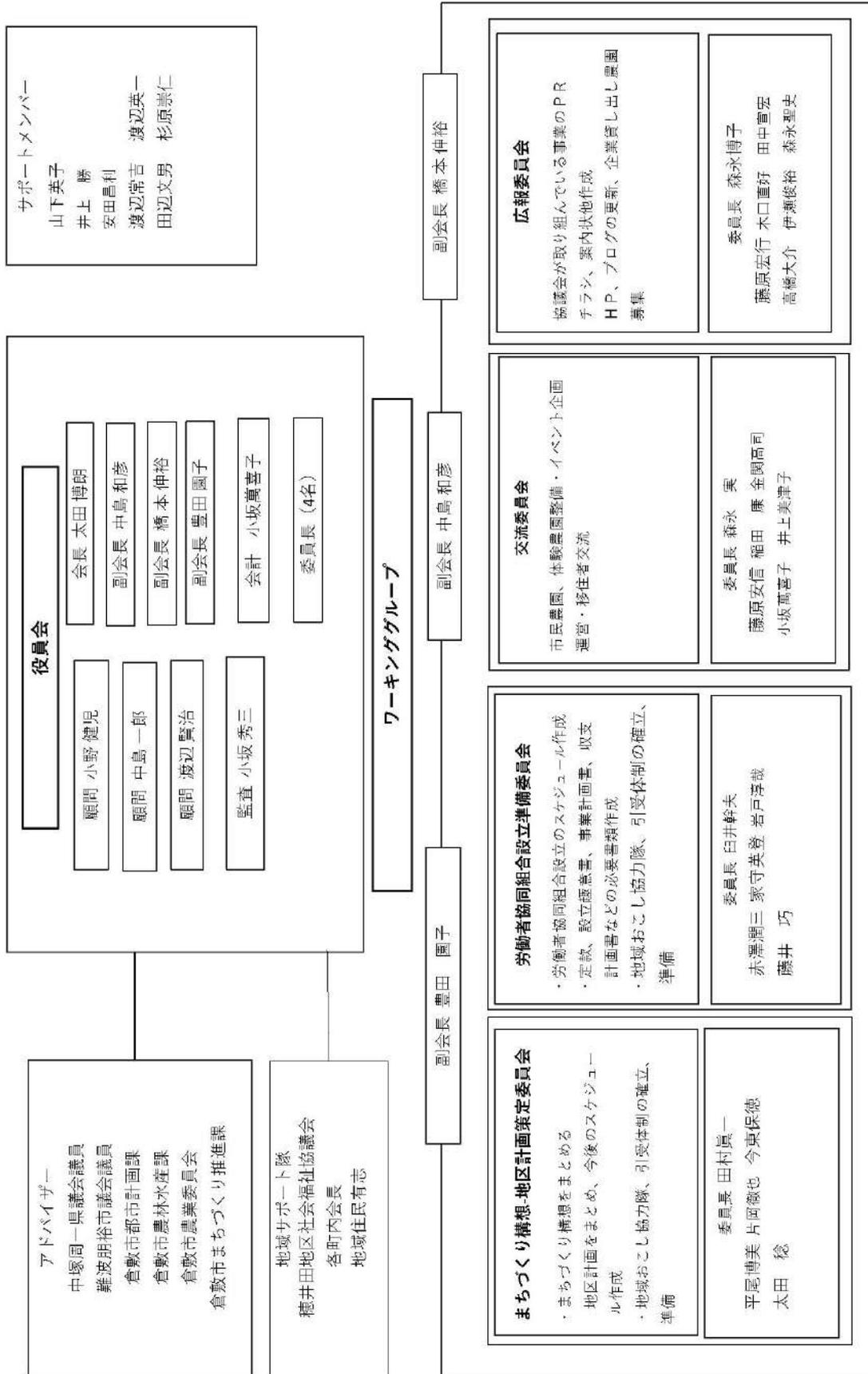
年月	事項
平成 26 年 4 月	玉島陶・服部地区の農業委員から農業委員会へ「農振農用地であるため農地転用が困難。過疎化、高齢化により農地が荒廃するなか、荒れてしまう農地であれば宅地に転用し、若い世代に住んでもらいたい。他の地域からも転入してもらいたい。」と提言。
平成 28 年 2 月	倉敷市議会で「地域における住民の合意のもとに作成された『まちづくり計画（まちづくり構想）』を受けて、市では住民のまちづくりを支援する」と答弁。
平成 28 年 5 月	穂井田地区社会福祉協議会総会にて、穂井田地区まちづくり活動への取り組みが承認され、「玉島陶・服部地域まちづくり協議会」を設立。
平成 29 年 4 月～	平成 29 年度倉敷市市民企画提案事業の採択を受け、穂井田地区の『まちづくり計画（まちづくり構想）』作成に向けた様々な事業を実施。
平成 30 年 4 月	平成 30 年度倉敷市市民企画提案事業の採択を受け、玉島陶・服部地区に住みたくする定住・移住環境の整備、移住希望者と地区住民との交流促進の事業を実施。
令和元年 4 月	平成 31 年度倉敷市市民企画提案事業の採択を受け、玉島陶・服部地域を持続可能な地域にするための人材発掘と育成の研修会、全員アンケート実施。
令和 2 年 4 月	令和2年度岡山県備中県民局提案型協働事業の採択を受け、市民農園開設、野菜苗植え付け、収穫体験開催。「人・農地プラン」実質化に向けたアンケートを実施。
令和 3 年 4 月	令和 3 年度岡山県備中県民局提案型協働事業の採択を受け、市民農園増設、観光農園開設、野菜苗植え付け、収穫体験開催。移住者交流会開催。「実質化された人・農地プラン」が倉敷市に承認された。
令和 4 年 5 月	クラウドファンディングを利用して持続可能な地域づくりの活動資金を捻出。加藤勝信厚生労働大臣に来ていただき、地区計画に向けた協議会の活動を報告、助言をいただく。倉敷市まちづくり推進課に地域おこし協力隊派遣を依頼。倉敷市都市計画課とまちづくり構想の策定に向けた協議を実施。
令和 5 年 4 月	まちづくり構想－地区計画策定委員がまちづくり構想立案に向けて本格始動。企業用市民農園（あいちゃんファーム）開園。労働者協同組合設立に向けて勉強会開催。地域おこし協力隊募集資料作成。

《玉島陶・服部地域まちづくり協議会役員名簿》

役職	氏名	備考
会長	太田 博朗	
副会長	中島 和彦	
//	橋本 伸裕	
//	豊田 園子	
顧問	小野 健児	
//	中島 一郎	
//	渡辺 賢二	
監査	小坂 秀三	
会計	小坂 萬喜子	
委員長	田村 眞一	まちづくり構想－地区計画策定委員
委員長	臼井 幹夫	労働者協同組合設立準備委員会
委員長	森永 実	交流委員会
委員長	森永 博子	広報委員会

令和6年6月30日現在

《玉島陶・服部地域まちづくり協議会組織図》



会員数31名

令和6年6月30日現在

お問い合わせ

玉島陶・服部地域まちづくり協議会

住 所：倉敷市玉島陶1834-1

電話／FAX：086-525-5058

電子メール：h-ikoi@mx1.tamatele.ne.jp

ホームページ：<https://hoida.sakura.ne.jp>



穂井田
ええとこウェブ
公開中！！